

“国際学生フォーラム 2014” 参加報告

2014年6月1日(日)～5日(木)、童話作家アンデルセンの故郷として有名なオーデンセにて、南デンマーク大学の主催で国際学生フォーラム 2014 が開催された。本フォーラムは日・中・米・英・豪・丁の6大学がコアメンバーとして持ち回りで主催しており、運営・進行等すべて大学院学生が中心となって行われている。優秀な大学院学生に成果発表の機会を与え、また会期中の交流を通じて学生同士互いに刺激し合う場として、毎年非常に有意義な結果を残している。

今回、本学(医科研)からは5名の大学院学生が参加した。自身の研究成果を口頭発表するだけでなく、ポスター発表でディスカッションをする時間も十分に確保されていた。また、イーエスコウ城やアンデルセン博物館への見学も日程に組み込まれており、デンマークの文化に触れる機会も多かった。学生達は全員無事に発表を終えて帰国することができた。参加者からは、「各国の個性に溢れた発表から、考え方や研究手法のみならずプレゼンテーションの方法、英語での質疑の方法を学ぶことができた。各国の学生に共通した悩みなども含め様々な情報を交換でき、非常に有意義だったと考えている。」との嬉しい報告を受けた。6ヶ国間では研究に関してだけでなく、文化的交流も行われたため、参加者たちはデンマークを充分満喫したようである。

第11回目となる2015年は、今年から新たにコアメンバーに加わったスコットランドのアバディーン大学が主催の予定である。



“国際学生フォーラム 2013”参加報告

2013年10月14日(月)～16日(水)、オーストラリアのゴールドコーストにて、グリフィス大学の主催で国際学生フォーラム 2013 が開催され、今回、医科研からは9名の大学院生が参加した。

参加機関

ネブラスカ大学メディカルセンター (UNMC)

東京大学医科学研究所 (IMSUT)

中国科学院 (GUCAS)

豪グリフィス大学 (主催)

南デンマーク大学



“国際学生フォーラム 2012”参加報告

2012年8月7日(火)～9日(木)、米国ネブラスカ州・オマハにて、ネブラスカ大学メディカルセンターの主催で国際学生フォーラム 2012 が開催され、今回、医科研からは8名の大学院生が参加した。

参加機関

ネブラスカ大学メディカルセンター (UNMC)

東京大学医科学研究所 (IMSUT)

中国科学院 (GUCAS)

上海交通大学医学院

同済大学

山東大学

豪グリフィス大学



“国際学生フォーラム 2011”開催報告

10月11日（火）～13日（木）の3日間、医科学研究所の主催で国際学生フォーラム2011が開催された。本フォーラムは、医科学研究所、中国科学院、ネブラスカ大学メディカルセンター、グリフィス大学の4校が毎年持ち回りで主催しており、企画・運営等はずべて参加する博士課程大学院学生が中心となって行っている。また、合宿型のフォーラムというのも特徴の1つで、参加者は会場である国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木）に宿泊しながら、食事を共にし、セッション以外にも交流の機会を持つことができる。

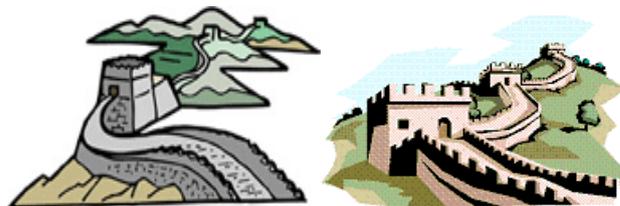
会期中は天候に恵まれ、大変過ごしやすい秋晴れが続いた。11日夜に参加者全員の顔合わせを兼ねたオリエンテーションを行い、12日には清野宏所長による開会の挨拶後、2部屋に分かれてセッション、13日午前中にも引き続きセッションを行い、午後はエクスカージョン、そして夜のレセプションパーティで幕を閉じた。エクスカージョンでは上野の国立科学博物館と浅草を見学し、大変喜んで頂けた。また、医科学研究所附属病院の最上階にあるホールで行ったレセプションパーティでは、各校代表者による記念品交換を行い、また、屋上に出てライトアップされた東京タワーをバックに記念写真を撮り合うなど、大変なごやかなムードで本フォーラムを締めくくることができた。

参加した大学院学生の中には、今回初めて英語でプレゼンテーションをしたという方もいたようで、大変刺激的で貴重な経験となったようだ。フォーラムの企画・運営に携わるというのも貴重な体験だったと思う。学生の皆さんには、今回の経験を生かし、今後益々活躍していかれることを期待する。



“国際学生フォーラム 2010”参加報告

2010年9月26日(日)～28日(火)、中国科学院研究生院(GUCAS)の主催で北京にて国際学生フォーラム2010が開催された。本フォーラムは日・中・米・豪の4大学がコアメンバーとして持ち回りで主催しており、運営・進行等すべて大学院学生が中心となっていて行われている。優秀な大学院学生に成果発表の機会を与え、また会期中の交流を通じて学生同士互いに刺激し合う場として、毎年非常に有意義な結果を残している。



今年、本学(医科研及び先端研)からは8名の大学院学生が参加した。中国における反日運動の影響を懸念し、参加者には旅行中の行動について特別に注意喚起を行うなど緊張感もあったが、全員無事に発表を終えて帰国することができた。本学参加者からは、「今後の研究活動の糧となる大変貴重で有意義な経験であり、多くの刺激を受けた。多数の新しい友人たちと連絡先も交換し、ネットワークが広がった。」との嬉しい報告を受けた。セッションの他、万里の長城やオリンピックスタジアムへの見学も日程に組み込まれており、初秋の北京を充分満喫したようである。

第7回目となる2012年は医科研が主催となる。本学を世界にアピールしつつ参加者から満足の声の聞ける素晴らしいフォーラムとなるよう、準備を始めている。



“国際学生フォーラム 2009” 参加報告

11月22日(日)～11月26日(木)の5日間、オーストラリアグリフィス大学・ゴールドコーストキャンパスにて International Student Research Forum 2009 が開催された。今年は日本、中国、アメリカ、オーストラリアから大学院生 46 名が参加し、研究成果の発表を通じて交流を深め合った。東大では参加者を公募した結果 12 名の応募があり、そのうちこれまでの研究実績及び応募動機の 2 つの観点から選抜した 5 名の博士課程大学院生（医科学研究所 4 名、先端科学技術研究センター 1 名）を代表として派遣した。

現在では規模も拡大し、名称も変更されたが、本フォーラムは元々 2005 年 10 月に医科学研究所主催で開催された東大-中国科学院学生フォーラムに端を発する。現在は東大医科学研究所、中国科学院、米ネブラスカ大学メディカルセンター、そしてオーストラリアで最も実力を伸ばしつつあるグリフィス大学の 4 校がコア・メンバーとなっており、持ち回りで主催している。グリフィス大学が主催校となるのは今回が初めてであった。同校の主な研究成果には、インフルエンザウィルス抑制剤の開発(Mark von Izstein 教授)、成体ラット鼻組織からの多能性幹細胞の分離(Alan Mackay-Sim 教授)などがある。

研究発表セッションは 23 日(月)、24 日(火)の 2 日間に行われた。各大学の学生リーダーは、フォーラム運営に携わるほか、セッションの座長も務める。本フォーラムはバイオメディカルをメインテーマとしているが、中にはエコロジー分野の研究発表や、雄ミバエ間の求愛行動を抑制する遺伝子についての研究発表などもあり、大変興味深かった。

また、セッションの他にグリフィス大学の所有する研究所への訪問やオーストラリア文化体験など、参加者同士の交流を深めることのできるイベントも行われた。中でも、歓迎会でのバーベキューとオーストラリア先住民族（アボリジニ）によるダンスパフォーマンス、ローンパインコアラ保護区は特に印象的であった。

大変意義のある、充実した 5 日間のフォーラムは参加者にとって大変貴重な経験となった。企画・運営にご尽力頂いたグリフィス大学の方々に感謝申し上げたい。



“国際学生フォーラム 2008” 参加報告

6月1日(日)～6月3日(火)の3日間、米国ネブラスカ州オマハの University of Nebraska Medical Center(UNMC)にて国際学生フォーラム 2008 が開催された。このフォーラムは本年が第4回目となり、参加機関は過去最多の6ヶ国6機関、また北京(中国科学院)と東京(医科学研究所)以外での初めての開催であった。本学からは大学院生4名、教員1名が参加し、研究発表会をメインに、見学、研究交流をおこなった。本フォーラムは、国境と研究分野をこえた研究者間の交流を通じて新しい人間関係を築き上げ、将来の共同研究などに結びつけることを目的とする。各セッションの座長を学生が担当するなど、学生が主体となり、まさに学生による学生のためのフォーラムであったと言える。

(参加者の感想：大学院生 池田聡史さん)

初めに、僕らの滞在中、非常に手厚いもてなしを頂いたことに対し、尊敬と感謝の意を表したい。異文化で異分野の研究、それでも通じるものがあった。それは科学が好きだという気持ちによるものだと思う。研究発表時はもちろん、お酒を飲みながらでもいつの間にか研究の話になり、最後の夜には中国の学生と「また、中国かアメリカか日本で会おう」と約束し別れた。今回感じたことは、「文化が違えば学べることも違う」ということ。アメリカでは、日本人研究者の真面目でひたむきな姿に対する評価が高かった。それが日本で学べる研究姿勢だろうが、異文化ではまた違う能力が養われるはずだ。今は普段の研究生活に戻り、今回感じた「何か」を具体的な形にする為に研究と英語の勉強に励んでいる。

